

平成 24 年度研究成果情報

課題名：野生種と養殖品種の交配株からのノリ優良品種の選抜

[背景・ねらい]

ノリ養殖業界の厳しい状況の中で乾海苔単価の低迷が続いている。一方、アカグサレ病などの病害や栄養塩の減少などの影響を大きく受け、ノリ生産も依然として不安定である。また、近年、外国産ノリの輸入問題などから、高品質な乾海苔の生産が求められている。

そのような中、現場では、他品種と明確に異なる特性を持つ品種の要望が多い。現在の養殖品種は、遺伝的にほぼ均一になってきているものの、ウップルイノリ等のアマノリ類野生種は、スサビノリとは異なる優れた特性を有していると考えられる。本研究では、本センターが所有している野生種 (*Pyropia haitanensis* : ダンシサイ) と養殖品種 (*P. yezoensis* : S-5-0) の交配株 (以降、ダンシサイ交配株と表す) を用いて、養殖品種として実用性の高い優良な株を選抜することを目的とした。

[成果]

- (1) 本センターが所有しているダンシサイ交配株 (5 株; A,B,C,D,E) を用いた採苗試験の結果、3 株 (A,C,D) で良い評価が得られた。
- (2) 同 5 株について高生長株選抜試験 (20°C; 30 日間)、および高水温耐性選抜試験 (25°C; 5 日間、14 日間かけて 22°C に下げる) を実施した結果 (図 1, 2)、3 株 (A,C,D) で良い評価 (図 2) が得られ、各々の葉長上位 5 枚の葉状体からフリー系状体を分離した。

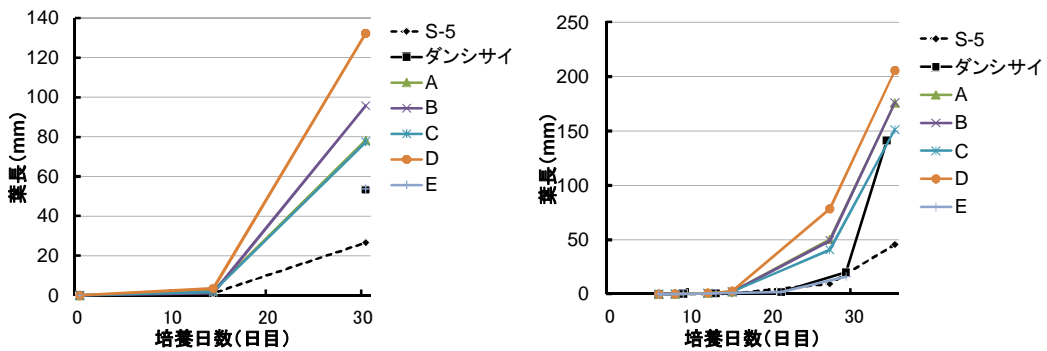


図1 各株間での葉長の比
(左:高生長株選抜、右:高水温耐性株選抜、葉長上位 15 個体を測定)



図2 各株間での葉長の比較

[課題・問題点]

- ・ 本試験では、採苗および生長性について選抜を行ったが、今後、養殖品種として必要な柔らかさ等の特性の評価が必要である。また、選抜した株の遺伝的な特性が固定されているかどうか確認する必要がある。

[今後の対応]

- ・ 平成 24 年度で選抜した葉状体から得たフリー系状体から得られたノリ葉状体が、生長性や高水温耐性を持っているか確認する。また、選抜した株の遺伝的な特性が固定されているかどうか確認する。

[その他]

本研究は、(財)海苔増殖振興会からの助成金により実施した。

研究期間:平成 24 年

研究担当者:ノリ研究担当 山田 秀樹